

駅伝とつなぎ続けることの意味と価値
Long-distance Road relay, Communication, Connection

2026.1.21

皆さん、おはようございます。

今日はまずは皆さんへの御礼からです。先週に東雲小学校の入学調査が行われました。この中にも小学校の入学前に経験した皆さんもいますが、おそらく経験した皆さんはとても記憶に残っている出来事だったことと思います。

先週も多くの子供たちがとても頑張って入学調査に臨んでくれました。先週は天気もよく、さらに皆さんにとっても新たに昼休みに使えるボールが増えた中で多くの皆さんが校庭に繰り出して身体を動かしたり、活動したりしたいと思っていた中と受けとめています。その中で小学校の入学調査にあたり、皆さんにも静粛な環境の創出の願いをしましたが、しっかりと対応してくれて、入学調査に臨んだ皆さんやその保護者の皆さんも東雲はやはり素晴らしい学校だと思ってもらえたことと喜んでいきます。

ここまでも感銘をうけていますが、皆さんが日々、メリハリとオンオフをしっかりと意識した学校生活を送ってくれていることに改めてこの場で感謝の気持ちを伝えたいと思ったところです。いま東雲中の3年生の皆さんはそれぞれの進路にむけて邁進してくれています。先週に東雲小に対して皆さんがむけてくれた温かいまなざしを、この先には特に東雲中の3年生の皆さんにも静かに穏やかにおくことができる学校環境を創出していければ、それは2年生や1年生の皆さんにとっても必ずや何らかの良い還元がなされることと期待しています。

さて実は先の日曜に広島で開催された全国男子駅伝の第一中継所の近くで観戦をしました。なぜならば、母校の中学生が2区を走る予定になっていて、その中学生を小学生の頃にコーチしていたのが私の同級生で、その同級生と30年ぶりに再会して一緒に観戦をしたところでした。観戦している中で一区の長崎県の高校生が中継所の少し前でのアクシデントで苦しい状態の中でも襷をつなぎ姿を目撃しました。その襷を長崎県の続く選手の皆さんも最後までつなぎ続けた姿が報道もされましたが、沿道の皆さんの中には涙を流されている人も少なくはありませんでした。

長崎県の選手の皆さんへの温かいまなざしが多い中で、一方では選手に無理をさせすぎずに身体を守る必要があったのではないかとの声もあったようです。先日の三学期の始業式でもお話をしましたが、この点も本当に紙一重の判断かと感じます。将来のある選手の身体に負担をかけて襷をつなぎ続ける必要があるのかどうか、その判断は本当に難しいところです。皆さんもこれまでもこれから色々な難しい選択や判断をしていくこととなりますが、大事なことは必ずしも自分一人でその時の状況だけで全てを背負いすぎることではないことを、ここでは皆さんにお伝えしたいと考えています。この点はまさに駅伝という競技に象徴されますが、襷をつなぎことだけが重要なのではなく、誰が何をどのようにつなぎ続けていくことに、真の意味や価値があるのかを今後も皆さんと共に考えていきたいところです。